

立命館慶祥中学校・高等学校 2021年度 学校目標 年度末報告シート

教育目標		中期目標			
「世界に通用する18歳」の育成		2025年度まで ①「2030年の受験者層に響くグローバル教育の充実化」の準備 ②札幌圏の中学受験者層が求める進学校的サービスの一環として個別または小集団型学習の強化 ③小中連携プログラムによる接続教育誘導政策の推進 ④田中学園立命館慶祥小学校の学校運営に関する支援			
区分	A. 課題(上位目標)	B. 目標(中位目標)	C. 達成目標(当年度目標)	D. 自己評価	E. 具体的施策(どのような方法で)
教学課題	I GL構想ーグローバル教育の新展開	1 教育内容やカリキュラムの検討	(1)教育内容の検討	△	①執行部内で小学校接続政策を議論 ②執行部会議と運営会議で2025年度改定カリキュラム内容を議論 ③執行部内で2024年度開講予定科目を決定
			(2)カリキュラムの検討	△	
			(3)新学校設定科目の検討	○	
		2 社会連携の検討	(1)行政との関係構築	○	①執行部担当が行政機関を訪問し情報収集等を行う ②執行部担当が企業を訪問し情報収集等を行う ③執行部担当が研究機関を訪問し情報収集等を行う
			(2)企業との関係構築	○	
			(3)研究機関との関係構築	○	
	3 優秀層のRU・APU進学に向けた施策	(1)RU・APUへの進学率50%	○	①担任・学年・高大連携部による学内推薦に向かわせる指導 ②③高大連携部・学年・外国語科による、TOEFL受験開始の早期化や学園主催の高い語学力を修得する講座受講等に向かわせる指導	
		(2)TOEFL-ITP(R)スコア400以上の早期達成	○		
		(3)TOEFL-ITP(R)スコア500以上人数の増加	△		
	II SP構想ー新しい価値を創造し社会に変革をもたらすリーダー人材の育成	1 「東京医50」の達成に向けた構造の改革	(1)「東京医50」の継続的達成	△	①担任・教科担当・学年・進路部による指導 ②教科・課題研究・SSH担当者等による指導 ③担任・学年による家庭学習時間の記録習慣と科目別学習時間の指導や、効果的講座編成につながる進路指導
			(2)学内外の学術プログラムへの応募・表彰数10以上	○	
			(3)各種模試における好成績者人数の増加	△	
2 ICT活用による学習環境の最適化		(1)ICTツール利用数の増長	△	①各教科が新学習指導要領の方向性を意識した学習指導 ②各教科がロイロノート等を活用して積極的にペーパーレス化を推進 ③一斉型指導の講習を一部ICTツールに切り替える	
		(2)ICTツール導入によるペーパーレス化	○		
		(3)進路別対面個別型学習指導の強化	△		
3 優秀層のRU・APU進学に向けた施策		(1)Rコース選択者50%	△	①担任・学年・高大連携部・外国語科による、TOEFL受験開始の早期化とそれに伴う指導 ②③担任・学年・高大連携部・進路部による指導、一貫教育部の協力を得ながら各種プログラムの開催	
		(2)特別指定校推薦の利用増	△		
		(3)RU特別・一般入試合格者の輩出	○		
III 提携小学校との連携による小中高大院一貫教育	1 提携小学校開校準備の支援	(1)小中連携プログラムの具現化	△	①執行部内で小学校接続政策を議論 ②教員会議等を通じて提携小学校関連情報を全教員で共有	
		(2)提携小学校開校準備情報の共有	△		
	2 提携小学校児童受け入れの準備	(1)提携小学校からの推薦入学制度の具現化	△	①執行部内で小学校接続政策を議論 ②執行部会議と運営会議で2025年度改定カリキュラム内容を議論	
		(2)2025年度以降のカリキュラムの議論	△		
	3 グローバル教育の充実化	(1)新海外研修旅行の運用	△	①国際部および担当者による海外研修旅行または充実した事前学習の実施 ②学年が中心となって国際的観点を一部含む国内研修を代替実施 ③実施可能な留学・海外プログラムへの参加支援	
		(2)海外研修代替プログラムの企画と運用	○		
管理運営課題	I GL構想ーグローバル教育の新展開	1 社会連携・教員確保の検討	(1)行政・企業・研究機関との関係構築	○	①執行部担当が行政機関を訪問し情報収集等を行う ②執行部内で中長期的学費政策を議論 ③執行部担当が一貫教育部の協力を得ながら、支援受入部署・機関と協議
			(2)教員計画の検討	△	
			(3)部活動新支援体制の構築	△	
		2 寮政策の検討	(1)計画に基づく現在の寮との契約更新	○	①執行部担当が現在の寮との交渉 ②執行部担当が視察等によりボーディングスクール校地を選定 ③執行部担当が海外視察等により計画を立案
			(2)ボーディングスクール構想の具現化	△	
			(3)海外出身生徒受入政策の具現化	×	
	3 学費政策の検討	(1)定員充足率(100~110%)	○	①執行部・入試事務局で小学校接続政策を議論、受験者情報を詳細にみた歩留まり率を試算、②執行部内で中長期的学費政策を議論	
		(2)高学費政策の具現化	△		
		(3)個別学習支援新体制の構築	△		
	II SP構想ー新しい価値を創造し社会に変革をもたらすリーダー人材の育成	1 「東京医50」の達成に向けた構造の改革	(1)中学入試志願倍率(1.7倍)	○	①②入試部・入試事務局による戦略的な対塾政策や説明会の実施 ③入試部・入試戦略室・入試事務局による戦略的な対塾政策・中訪活動・海外地方を含めた広報活動
			(2)札幌圏大手塾からの志願者増	○	
			(3)高校入試志願倍率(1.1倍)	○	
		2 優秀層のRU・APU進学に向けた施策	(1)カリキュラムの検討	△	①執行部会議と運営会議で2025年度改定カリキュラム内容を議論 ②旧担任等による学生訪問の実施や、現行カリキュラム・定期試験等の一部見直し
			(2)RU1回生GPA1.5未満学生数の減少	△	
			(3)ICT活用による学習環境の最適化	○	
	3 ICT活用による学習環境の最適化	(1)全生徒のBYOD体制	△	①情報部を中心として推奨デバイスを導入、②③情報部が他分掌と連携しながらロイロノート等の共通アプリケーションを導入し、Classiをプラットフォームとした各種連絡をペーパーレス化、③執行部担当が支援受入部署・機関と協議	
		(2)ICTツールの導入	○		
		(3)個別学習支援新体制の構築	△		
III 提携小学校との連携による小中高大院一貫教育	1 提携小学校開校準備の支援	(1)提携小学校開校準備支援体制の強化	△	①支援部署を設立し、窓口となり、開校準備を様々な分野で支援 ②教員会議等を通じて提携小学校関連情報を全教員で共有	
		(2)提携小学校開校準備情報の共有	△		
	2 提携小学校児童受け入れの準備	(1)高学費政策の具現化	△	①執行部内で中長期的学費政策を議論 ②執行部内で小学校接続政策を議論	
		(2)提携小学校からの推薦入学制度の具現化	△		
	3 グローバル教育の充実化	(1)カリキュラムの検討	○	①執行部担当が海外大学進学教育について視察	
		(2)提携小学校からの推薦入学制度の具現化	△		

達成状況 R2030におけるボーディングスクール構想は、学費政策、校地計画、小学校入学層のニーズなどと横にらみながら全体計画を進めてきた。現段階では不確定要素が多い中、課題研究を中心とする数多くの学校設定科目教育やRU・APUへの進路指導をベースに、学校設定科目の新規募集、新キャリアポイント制度の制度設計を進めることができた。また、新海外研修旅行の実施体制も整いつつある。コロナ禍の影響を受けつつも新たな国際交流の開発や、一部オンラインによる交流も昨年以上に進んだ。一方本校の(他大学)進学実績は、2022年度大学入試では「東京医40(うち現役20)」(3月31日現在)となった。入学時において成績優秀者層を一定確保することはできたが、最上位層以外に対するICT等を活用した個別最適型学習支援への切り替えは、慎重に行う必要があることが分かった。提携小学校開校に向けた協力は順調に進めることができた。

改善策 現時点では特色的なプログラムに関心を示す生徒はSPコースに比較的多い傾向がある。GLコースへの準備と移行を踏まえ、オンラインあるいは国内実施型の国際的プログラムの充実化、教科横断型教育の強化、提携小学校との接続性が高いカリキュラムの構築など、一貫コース・高入生・GLコースへ接続してゆく提携小学校出身生徒が、社会や海外等との様々な連携を通して、GLAや海外大学等への進学を志向する教育の展開を強化する必要がある。中学における数学・英語の少人数・先取り型の指導、授業に加えた演習・講習における対面指導型指導の充実、家庭学習の課題・時間点検等による学習時間定着指導など、きめ細やかな指導体制を一定担保できるよう、現行カリキュラム体制下での科目選択指導、効率性と柔軟性の高い新カリキュラムの構築が必要である。2025年度から始まる提携小学校との接続教育に対しては、入学層の学力とその推察、保護者のニーズなどを見極めながら、2023年当初から広報ができるよう準備を進める必要がある。

学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	委員長：高橋一之(立命館慶祥中学校・高等学校保護者会会長) 委員：支部英孝(江別市教育委員会委員長職務代理)、林雅子(北海道旅客鉄道株式会社社道事業本部営業部長)、小笠原正浩(立命館慶祥中学校・高等学校教育振興会会長)、大越高(立命館慶祥会会長)、久野信之(学校法人立命館常務理事)、横澤広久(同一貫教育部部長)、江川順一(立命館慶祥中学校・高等学校校長)
	委員会開催日程 主な議題	<第1回目>2021年6月11日(金)10:00~11:40 議題：①2020年度学校総括について、②2021年度学校方針について、③授業参観とその評価 <第2回目>2022年1月14日(金)10:00~11:30(予定) 議題：①2021年度前半期の学校の取り組み状況について、②授業参観とその評価
	評価、改善事項	<第1回目>冒頭に授業参観を行ったのち、「2020年度立命館慶祥中学校・高等学校学校総括」および「2021年度立命館慶祥中学校・高等学校学校方針」について学校より説明を行い、各委員の方よりご意見を伺った。主にコロナ禍においてもリモートとリアルを両立しての教育実践の必要性、リモートの実施における生徒が孤立防止の必要性、国や道の支援による生徒個人へのデバイスの配布の必要性、慶祥教育の目玉である海外研修の今後の見直し、などについて発言があり、意見交換を行った。 <第2回目>授業参観を行う予定であったが、雪害によって休校となったため中止となった。「2021年度前半期の学校の取り組み状況」について学校より説明を行い、各委員よりご意見を伺った。主には、コロナ禍におけるICT教育の取組と他校との差別化、海外研修旅行の今後の方針、生徒の取組に関わる国際的な受賞などについて意見交換をおこなった。なお、学内委員より本委員会においてはR2030の学園方針に沿った方針や状況の報告に示すよう指摘があり、次回以降、中期計画を示したうえで説明内容を改善することを確認した。